

日本高等教育学会  
第12回大会

2009年5月23日(土)11:10~11:30  
長崎大学 I-3部会 学生調査

---

新入生の教育評価  
—JFS2008データからジェンダー較差を中心に—

○相原総一郎  
(大阪薫英女子短期大学)

---



# 研究の枠組と焦点

---

## 1. ジェンダーと大学生の意識と行動

---

性	価値意識	自己評価	学習
---	------	------	----

---

男	地位達成	促進	消極
女	人間関係	抑制	積極
	(1-1)	(1-2)	(1-3)

---

---

## ▶ 2. ジェンダーに配慮した教育

# 1-1 価値意識

---

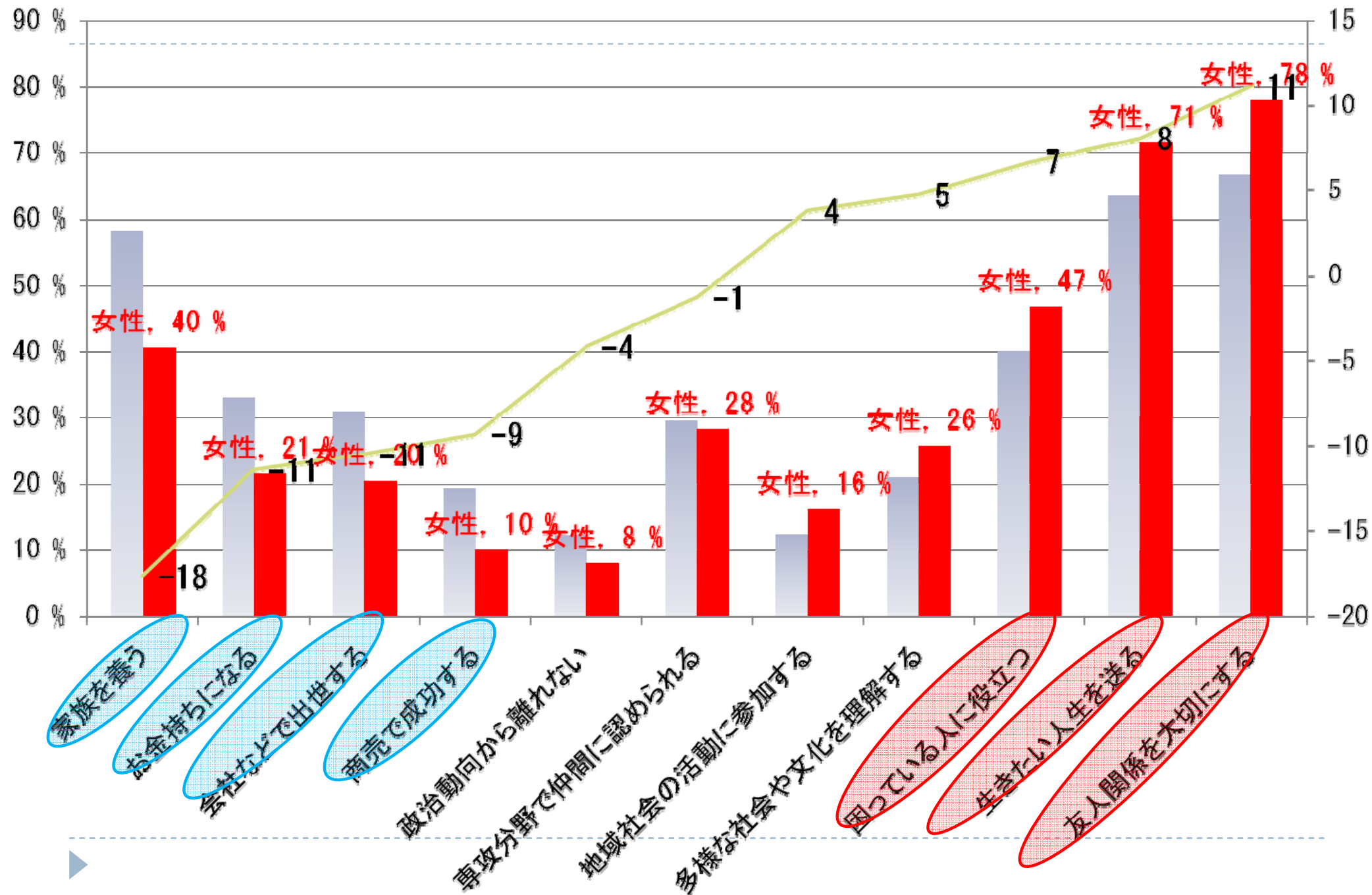
## 男性 地位達成

- 家族を養う
- お金持ちになる
- 会社などで出世する
- 商売で成功する

## 女性 人間関係

- 友人関係を大切にする
  - 生きたい人生を送る
  - 困っている人を助ける
- 
- 

# 図1 人間関係を重視する価値意識



# 1 - 2 自己評価

---

## 男性 促進

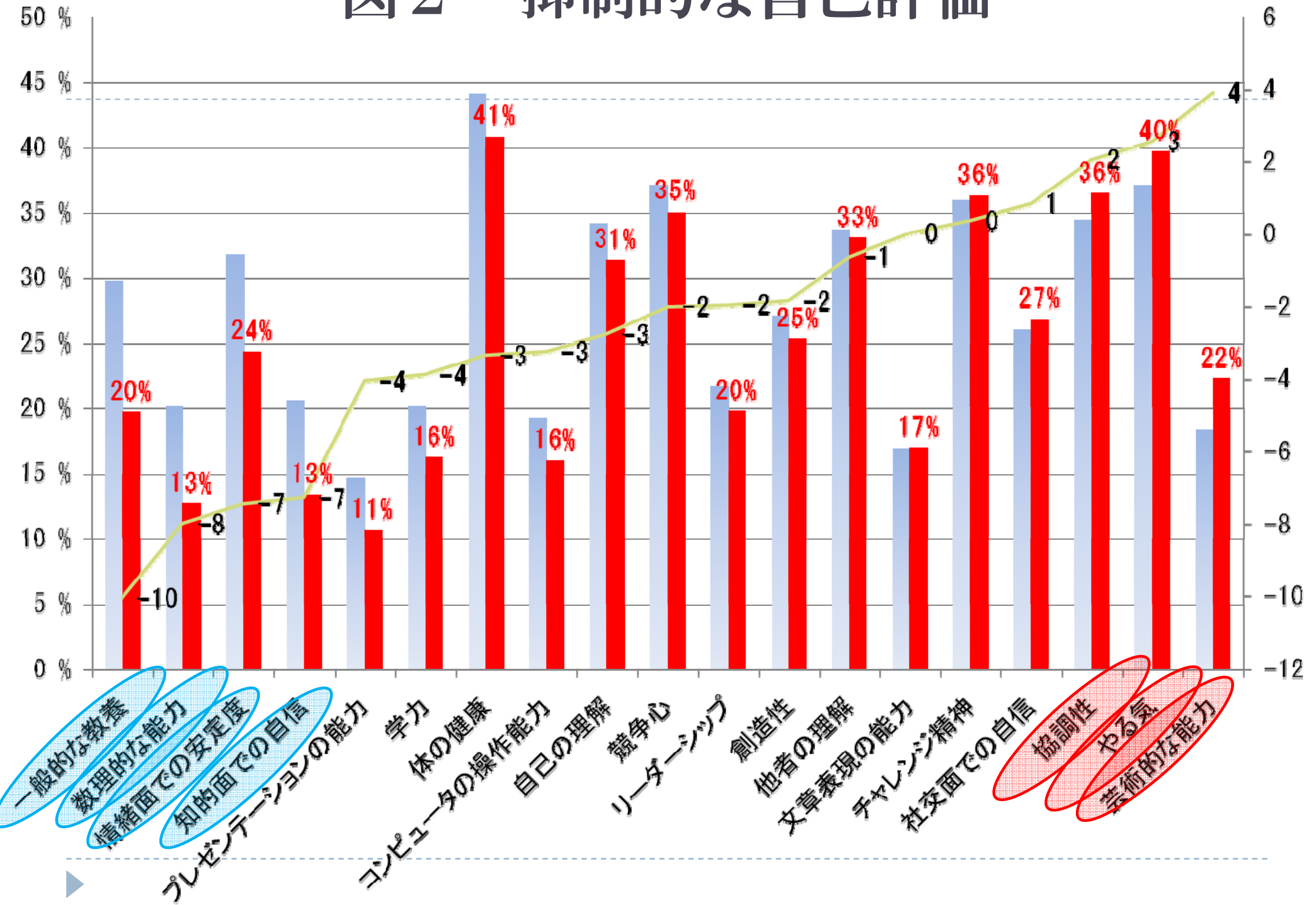
- 一般的な教養
- 数理的な能力
- 情緒面での安定度
- 知的面での自信

## 女性 抑制

- 芸術的な能力
  - やる気
  - 協調性
- 



# 図2 抑制的な自己評価



一般的な教養  
数理的な能力  
情緒面での安定度  
知的面での自信  
プレゼンテーションの能力

協調性  
やる気  
芸術的な能力

# 1 - 3 学習への関与

---

## ①勉強や宿題の時間

男性 1時間未満が多い

女性 16時間以上が多い

## ②高校での成績

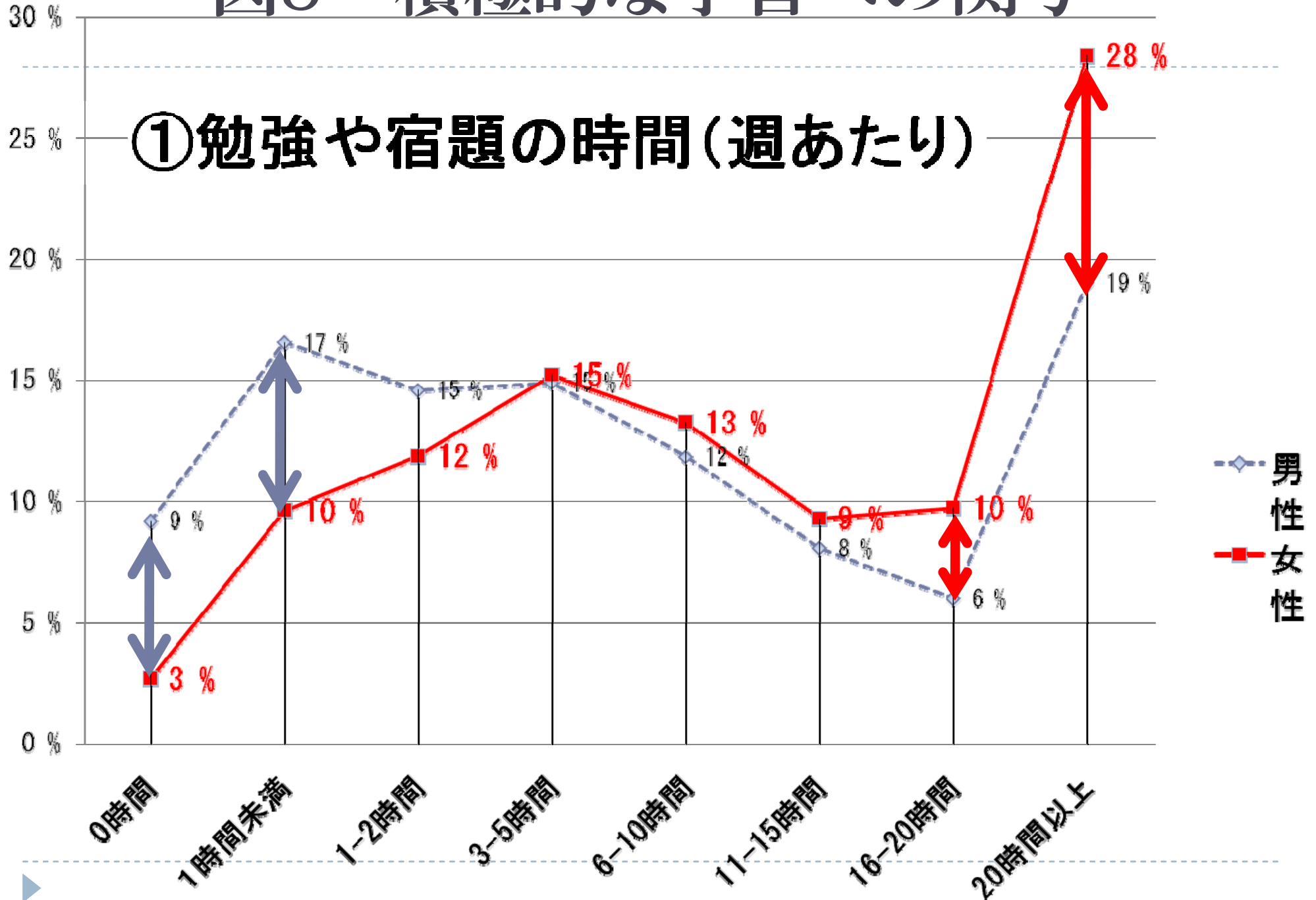
男性 下位が多い

女性 中の上が多い

---

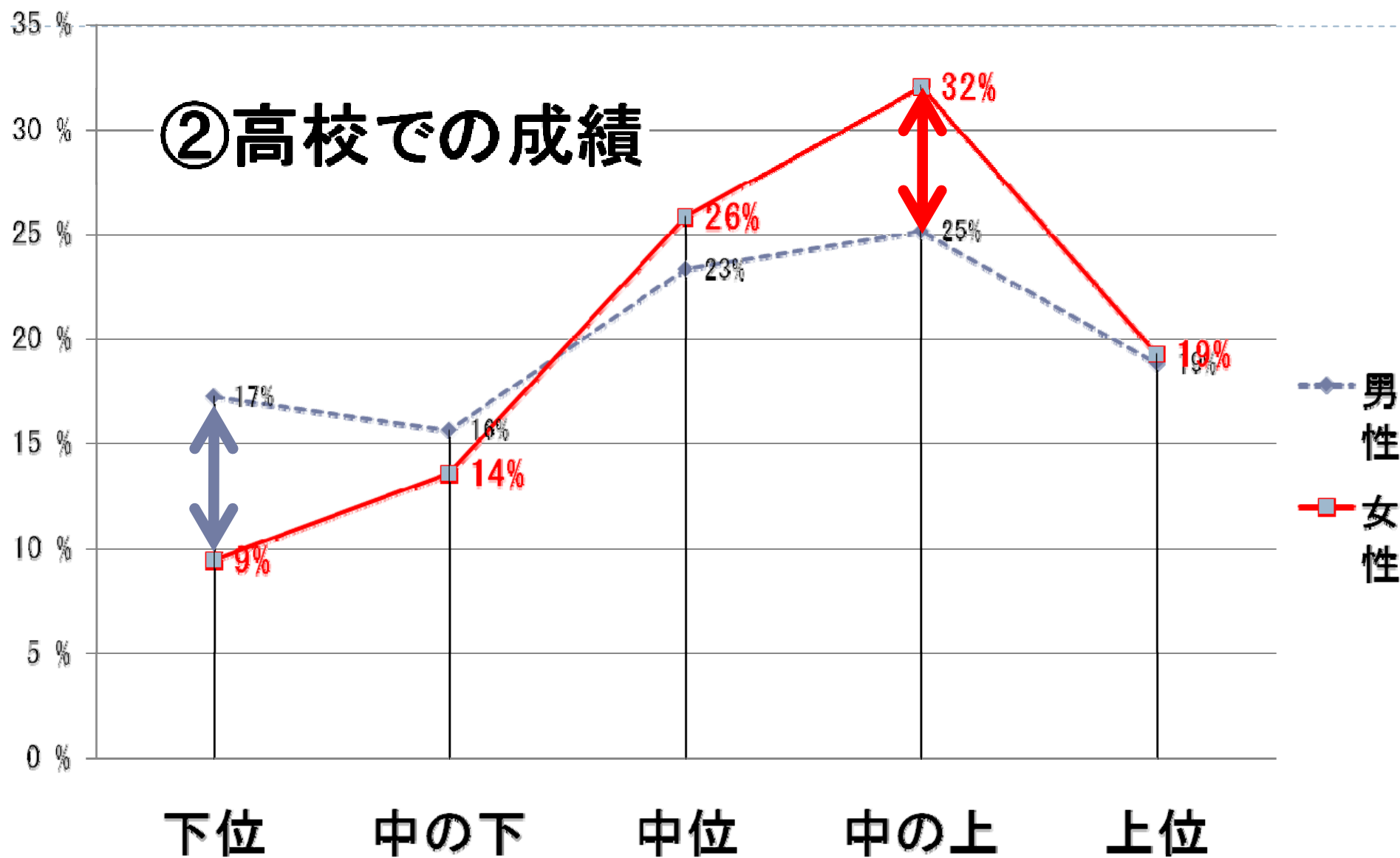


# 図3 積極的な学習への関与





# 図4 積極的な学習への関与



## 2-1 高校の学習と自己評価①

高校の学習		一般的な 教養		数理的な 能力	
		平均 未満	平均 以上	平均 未満	平均 以上
自分の意見を論 理的に主張した	よくした、ときどきした	44.9%	63.4%	47.3%	60.4%
	まったくしなかった	55.1%	36.6%	52.7%	39.6%

注) 高校の学習は問24より、自己評価は問23より「上位10%」「平均以上」と答えた学生について。

## 2 - 1 高校の学習と自己評価②

高校の学習		情緒面での安定度		知的面での自信	
		平均未満	平均以上	平均未満	平均以上
自分の意見を論理的に主張した	よくした、ときどきした	46.1%	58.1%	45.6%	68.0%
	まったくしなかった	53.9%	41.9%	54.4%	32.0%

注) 高校の学習は問24より、自己評価は問23より「上位10%」「平均以上」と答えた学生について。

## 2-2 自己評価の規定要因

「一般的教養」について

	$\beta$
性別_女性ダミー	-.131
高校での成績	.103
高校3年時の時間配分_勉強や宿題	.099
高校の学習_意見を論理的に主張	.171
価値観_文芸作品を執筆する	.040
価値観_多様な社会や文化を理解	.070
進学した大学の偏差値	.047
専門分野_理科系ダミー	-.049

# まとめ 高校の学習と自己評価

- ▶ JFS2008より新入生を検討
- ▶ ジェンダー較差の実態
  - \* 人間関係重視の価値観・低い自己評価
  - 学習には積極的
- ▶ 高校の学習と自己評価
  - \* 「論理的に意見を主張」→ 高い自己評価
- ▶ 自己評価の規定要因分析
  - \* 性差: 女性 → 大きくマイナスの影響
  - \* 高校の学習 → 大きくプラスの影響
  - \* 男女の規定要因の構造は同じ

まとめ

～続き～

---

## ジェンダーに配慮した教育

発言（論理的な意見の主張）は  
女子の自己評価をあげる効果  
がある。

ご静聴ありがとうございました。

連絡先：大阪薫英女子短期大学

相原総一郎

s-aihara@kun.ohs.ac.jp

---